

# Scrum -スクラム-

## 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を活用しましょう!

本号では、前号に引き続き、「児童・生徒の学力向上を図るための調査結果説明会」(1月に実施)の内容から、小学校社会、中学校国語における特徴的な事項をピックアップして紹介します。

### 小学校社会の調査結果から

小学校社会の問題からは、「駅の周辺の様子を地図記号や方位から読み取ることができるか」をみる問題を紹介します。

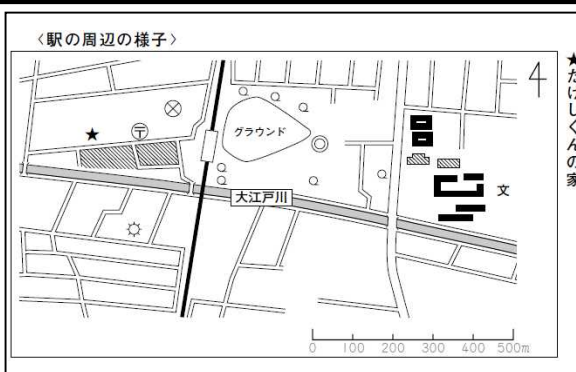
【問題】 たけしくんは、右の〈駅の周辺の様子〉の地図を見て分かったことを下の□のようにまとめました。

□の(①)から(③)までにあてはまるものとして正しい組み合わせはどれですか。下のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

鉄道と交差している大江戸川は(①)に流れています。駅の東側には(②)があり、駅から(③)の方向に警察署があります。

- ア ① 南北 ② 郵便局 ③ 北東  
ウ ① 南北 ② 市役所 ③ 北東

- イ ① 東西 ② 市役所 ③ 北西  
エ ① 東西 ② 郵便局 ③ 北西



【観点：観察・資料活用の技能】

ア(14.7%)    イ(正答 46.2%)    ウ(5.7%)    エ(25.9%)    その他(5.8%)    無解答(1.8%)

「大江戸川が東西に流れている」ことや「駅から北西の方向に警察署がある」ことを理解できていない児童(イ・エ以外)が27.9%、「駅の東側には市役所がある」ことを理解できていない児童(イ・ウ以外)が48.1%いることから、地図から方位や地図記号を読み取ることに課題があることが分かります。

そこで、地図から当該地域の景観や様子を確実に読み取れるようにするために、次のような地図の読み取りの段階的な指導を行う必要があります。

- ①実際の当該地域の景観や様子を捉え(見学)させた後に、当該地域の鳥瞰図や立体地図、航空写真などと比較させる。
- ②鳥瞰図や立体地図、航空写真などを平面地図に照らし合わせて、「建物・施設などがどこに位置しているのか」や「ある地点から東西南北のそれぞれの方位にある地域は、どのように土地利用がされているのか」を調べさせる。
- ③平面地図から、読み取れる当該地域の景観や様子を説明させる。

以上のことから、授業改善のポイントをまとめると、次のようになります。

鳥瞰図や立体地図、航空写真などを活用して、当該地域の景観や様子を実感的に把握させた上で、鳥瞰図などと平面地図を照らし合わせて、読み取れる景観や様子を説明させる段階的な指導を行う。

## 中学校国語の調査結果から

中学校国語の問題からは、「修飾と被修飾の関係を理解しているか」をみる問題を紹介します。

【問題】 次の——線を付けた言葉を修飾している部分はどれですか。すべて選びなさい。

母は ていねいに 古い アルバムの ページを めくった。

ア 母は      イ ていねいに      ウ 古い      エ ページを

【観点：言語についての知識・理解・技能】

イ, エ(正答 46.0%)    イ(4.2%)    エ(6.9%)    ア, イ, エ(14.5%)    その他(27.0%)    無解答(1.5%)

『母は』が『めくった』を修飾している」と考えてしまい、「主語と述語の関係」と「修飾と被修飾の関係」を混同して捉えてしまっている生徒が 14.5%以上います。これらの生徒については、「主語と述語の関係」と「修飾と被修飾の関係」についての理解に課題があることが分かります。

そこで、次のように、述語である「めくった」を手掛かりにして、それぞれの文節の修飾関係に着目させることによって、文節相互の関係を捉えさせる必要があります。

① この文の主語と述語は何ですか⇒主語は「母は」、述語は「めくった」

母は ..... ていねいに ..... 古い ..... アルバムの ..... ページを ..... めくった

母は ..... めくった

② 述語の「めくった」を詳しくしているものは何ですか⇒「ていねいに」と「ページを」

母は ..... ていねいに ..... ページを ..... めくった

③ 「ていねいに」を詳しくしているものは何ですか⇒なし

④ 「ページを」を詳しくしているものは何ですか⇒「アルバムの」

母は ..... ていねいに ..... アルバムの ..... ページを ..... めくった

⑤ 「アルバムの」を詳しくしているものは何ですか⇒「古い」

母は ..... ていねいに ..... 古い ..... アルバムの ..... ページを ..... めくった

以上のことから、授業改善のポイントをまとめると、次のようになります。

- \* 主となる文の構成要素に着目させるなどの指導の充実を図る。
- \* 述語を手掛かりとして、それぞれの文節の修飾関係に着目させ、文節相互の関係を捉えさせる。

## 【連載】義務教育特別支援教育指導課指導主事から 第10回:中学校 国語科

中学校新学習指導要領では、第2学年「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」の(ア)に「話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること」という指導事項があります。小学校での指導を踏まえ、音声言語としての「話し言葉」と文字言語としての「書き言葉」の特色や役割を理解させる必要があります。以下に、「話し言葉の指導」について述べます。

### 【「話し言葉」の特徴】

「話し言葉」は、時や場所、相手や目的が明確な場合に用いられます。また、過剰な情報を与えないために「省略」したり、聞き手の理解を確認しながら話したりするので、次の①～④のような特徴があります。

- ① 省略や代名詞が多く用いられる。  
(例) ぼく(の注文)はうなぎだ。
- ② 話の途中で同意を得たり質問をしたりする。  
(例) ……ですよね(同意を得る)。…かな?(問いかけや自問)
- ③ 聞き手に考える時間を与えるために、間を大きく開けたり間投詞(エー、等)を挟んだりする。
- ④ 大切な事柄をしっかりと記憶したりメモしたりさせるために、繰り返したり言い直したりする。

### 【「書き言葉」化する「話し言葉」】

このように、「話し言葉」は「書き言葉」とは大きく異なりますが、スピーチ原稿等の音声言語としての「話し言葉」の原稿が、文字言語としての「書き言葉」に書き換えられてしまう推敲場面を時々見ます。「文法的な正しさ」を中心に推敲するためです。実際に話をする場面では、話し手は聞き手を見ずに書き言葉に近い原稿を読み上げ、聞き手も配られた原稿をただ見ていることもあります。

### 【自分の個性にあった「話し言葉」】

そこで、「話し言葉」によく見られる省略、文末表現の変化、言いよどみ、繰り返し、言い直しなどを欠点として捉えるのではなく、話し言葉の特徴として積極的に生かす指導の工夫が必要です。さらに、「話し言葉」は話し手の「人となり」が表れます。絶対的に正しい「話し方」や「話の構成」というものではありません。状況に応じた、自分の個性に合った話し方を追究していく指導が求められます。

### 【「話し言葉」の指導】

「話し言葉」は、「書き言葉」のように理解するために何度も読み返すことができないので、話し手は、聞き手に一度で内容を理解させるようにする必要があります。そのためには、聞き手の人数や年齢、会場の設備に合うように話をするとともに、聞き手の興味や理解の具合を観察しながら話しなければなりません。そこで、聞き手に対しては、録音機器や資料などに頼らずにメモを取る活動をさせます。取ったメモには、「話し言葉」の課題が反映されるので、聞く力、メモする力と「話し言葉」を同時に指導することができます。話し手が、よりよい「話し言葉」で話すことができるようになるためには、直後に行うスピーチの評価に関する話合いが欠かせません。

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを送信してください。なお、本メール・マガジンは、pdfファイルにて提供いたしますので、携帯電話では読むことができない場合があります。